

ジャパンカップ×HPCJC ウィンチケット杯 FI



2/3月 4火 5水



川崎スポーツ

レース展望

2月3日からの川崎FI昼間開催はジャパンカップ×HPCJC・ウィンチケット杯の冠で、S級・A級ともに全国から好選手が集まり、ガールズケイリンも行われる。

S級戦は浅井康太(三重90期)・取鳥雄吾(岡山107期)・など普段GI戦線で活躍している選手たちが揃って激戦必至。ベテランの域に達している浅井は言わずと知れたオールラウンドプレーヤーで、ラインに強い積極型がいれば前を託すが、いなければ自らの自在脚を生かして好位からのバック捲りを狙わず。徹底先行取鳥はレースでの積極性は衰え知らずで、いつも通りの主導権奪取から最後に強地脚を発揮するだろ

う。追加参戦となった同県柏野智典(88期)とのワンツーを目指す。地元勢に目を向ければ成長著しい佐々木真也(117期)が期待を集めよう。昨年は青森記念制覇など着実に実績を積み重ねて、今回は追加となるがホームバンクでタテヨコ何でもこなす気合の入った組み立てを見せるはず。先輩のガッツマーカーク内藤秀久(89期)との好連係は必至だろう。関東勢では先行パワー強力な菊池岳人(長野117期)がブンブンレースを引っ張っていくのは間違いない。ニックネーム武田豊樹(茨城88期)もまだまだ渋太い走りを見せており、しっかり喰い下がっての連対を決めるか。

A級戦では125期の若手2人の先行力を中心に期待する。ホームバンクで今開催にS級特昇が掛かる地元塩島嵩一郎が9連勝を狙って初日から全開の走りを見せれば、同じく同期の栗山和樹(岐阜)もすでに1・2班戦6回の優勝実績があり、先日の京王閣でこちらも6連勝を達成して川崎に乗り込んで来る。どちらが完全Vを決めてS級特進を決めるのか、目が離せない両者の力勝負は見応え十分。ガールズは久米詩(静岡116期)と柳原真緒(福井114期)の脚力が断然で、ここに宇野紅音(岐阜124期)や地元高木佑真(116期)がどこまで迫って来られるかの戦い。

実力者揃って高レベルなV争い

S級 主力選手



佐々木真也 神奈川 117期

昨年はG3初優勝を果たすなど、飛躍の一年になった佐々木真也。年明けの大宮G3でも優出を決め、寺崎浩平(福井117期)の番手を脇本雄太(福井94期)から奪い3着。数字以上にインパクトのあるレースだった。地元のエースとして結果を残したいところだろう。

S級 主力選手



菊池岳仁 長野 117期

競輪選手養成所の初代早期卒業を寺崎浩平とともに決めた逸材で、出世の面から言えばデビュー直後は少し遅れたものの、2022年のヤンググランプリを制するなど、確実にパワーアップを果してGI戦線で今後の活躍が期待される。今回も3日間主導権取りに徹する。

S級 主力選手



取鳥雄吾 岡山 107期

直近では30本近いバック本数を維持し、競走得点も110点付近をキープしている取鳥雄吾。積極的な走りで安定した成績を残す。目立ったタイトルは無いが、上位陣相手でも積極的な姿勢は崩さず、いつグレードレースでヒットを飛ばしてもおかしくない実力がある。

A級 注目選手



塩島嵩一郎 神奈川 125期

昨年7月に125期生として本デビューを果たした塩島嵩一郎。デビュー早々の8月に落車をして出遅れたが、復帰後は順調にチャレンジ戦を特昇班でクリア。昇班後も6連勝で、ここ地元ホーム戦を迎える。ホームバンクで3連勝を飾り、S級特進を叶えられるか。

ガールズ 注目選手



久米 詩 静岡 116期

昨年はガールズGP出場を逃した久米詩だが、今年は年始から猛チャージ。初戦の伊東を完全Vで決めて、1月は12戦11勝で3Vの結果。賞金ランキングを独走している。まだまだ一年の長い道のりは始まったばかりだが、この勢いで今シリーズも結果出したい。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感であり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

